



資料1

アクションプランの進捗状況について

障害サービス課

1 アクションプランの進捗状況①

現時点で、本庁・園で、取組一つひとつの今年度の進捗状況を整理

A 取組を進めている

B 進めていたが、中断（停滞）してしまっている

C 未着手になっている

| 柱 | 進捗 | | | |
|-------------------|--------|--------|-------|------|
| I 人生に共感し、チーム支援 | A: 0件 | B: 5件 | C: 6件 | 計11件 |
| II 暮らしをつくる | A: 10件 | B: 13件 | C: 4件 | 計27件 |
| III いのちを守る施設運営 | A: 3件 | B: 17件 | C: 2件 | 計22件 |
| IV 施設運営を支える仕組みの改善 | A: 2件 | B: 12件 | C: 9件 | 計23件 |

1 アクションプランの進捗状況② (進捗状況ごとの評価)

A 取組を進めている

○ 取組は進めているが、利用者の暮らしに十分に反映されていない

- ・ 利用者自治会を毎月開催しているが、利用者の意見を施設運営に反映させられておらず、利用者の意向や希望を聞き取る、確認する工夫が必要
- ・ 骨粗鬆症に係る定期的な検査として、健康診断の検査項目に、骨密度測定を新たに加え、実施したが、結果の評価・分析、活用について検討が必要
- ・ 職員へのアンケートや意見交換を実施したが、結果の分析や今後の対応ができていない

B 進めていたが、中断(停滞)してしまっている

○ スケジュールや期限が明確になっていない

- ・ 生育歴の作成やカンファレンス等、期限を決めたスケジュール管理ができていない。

○ 取組の目的や必要性の理解が深まっていない

- ・ 生育歴の作成が目的になっていたり、利用者面談やオール中井デーの実施する意味を理解していない
- ・ 低アルブミンや低ナトリウム等の栄養に関する知識、一律にカロナールを服薬することへの問題意識、熱中症と筋肉量の関係等、医療と対等に議論するだけの福祉側の知識がない

C 未着手になっている

- 生育歴の作成が十分でないから、利用者面談に進まない
- 虐待発生時の対応や職員の人材育成等、本庁と園で進める取組が進んでいない

アクションプランに基づく取組が進んでいない

○ 目指すべき姿が共有できていない

- ・ 独法化等のこれからの目指すべき姿が園の職員と共有ができておらず、結果として、職員向けアンケート（参考資料3）では、「やりがいを持って仕事している」（昨年：77%、今年57%）と下がっている。
- ・ らっかせい等の取組を通じて、利用者も職員も少しずつ変化が出ている一方で、目指すべき姿が見えず、アクションプランが進まない、利用者の暮らしが変わっていかないことが原因ではないか。

○ 本庁と園が一体となって、進捗管理をする体制ができていなかった

- ・ アクションプランに沿った運営計画を作成しても、取組一つひとつの具体的なスケジュールは明確になっておらず、進捗状況を確認する場がなかった。
- ・ 不定期で拡大幹部会議において本庁職員も加わって進捗共有をしていたが、一つひとつの取組状況や課題、対応策等の議論を深められず、その他の機会でも本庁と園で進捗確認していくことがなかった。
- ・ 一つひとつの細かな取組担当も決めていたが、本庁と園で、進捗確認していく機会を設けなかった。

○ 課長を含む幹部職員が変則勤務で支援現場に入っている

3 対応策

- **目指す姿を共有し、職員がやりがいをもって働ける体制を整備**
 - ・ 園の改革や独法化が目指す姿や役割を全職員に説明
 - ・ アンケートの結果や勤務実態の分析
 - ・ 人手が足りていない女子寮の応援体制の強化
 - ・ いのちを守る取組を進めるための医療体制の強化

- **今年度の重点事項（利用者自治会／生育歴・利用者面談／日中活動の充実）、いのちを守る取組を最優先**

- **本庁と園が一体となって進捗管理し、取組や、利用者の暮らしの変化を積極的に発信**
 - 例) ・ 支援部長に集中している園の担当を見直し、業務の平準化を図る
 - ・ 具体的な議論・横断的な議論をするために、アクションプランの柱・取組内容ごとの担当を決め、隔週で進捗を確認する。
 - ・ 園長・独立行政化担当課長が全体をグリップし、月1回全体の進捗管理を行う。
 - ・ 進捗状況は、アドバイザー会議の開催、県議会への報告に加えて、2か月に1回、知事・アドバイザー会議委員へ報告